

| DP | CP | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|---|--|---|---|--|--|---|---|--|--|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| | | <p>A 幅広い教養と社会福祉の専門的知識・技能</p> <p>社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論を修得し、知識と技能を身に付けることで、人と社会を結びつけ、人々の生活上の問題を理解することができる。</p> | <p>A-2 「基本科目」や「方法・技術科目」等を中心に、社会福祉の学びの基盤となり、共通する知識と技能を修得するために、社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論をミクロのソーシャルワークからマクロのソーシャルポリシーの範囲まで総合的に学習し、人、地域、社会を関連付け、人々の生活上の問題及び社会問題を理解することができるようになるための科目を1年次より段階的に配置する。</p> | <p>◎社会福祉原論Ⅰ 医学一般Ⅰ 心理学理論と心理的支援 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ レクリエーション活動論 ジェンダー論 社会政策論</p> | <p>◎社会福祉原論Ⅱ 医学一般Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ</p> | <p>社会保障Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 司法福祉論 社会福祉調査法 介護概論 発達心理学Ⅰ 保育原理 幼児と表現（造形） マクロ経済学Ⅰ 世界経済論 政治学原論Ⅰ 教育の理念と歴史 現代哲学思想A 宗教学A</p> | <p>社会保障Ⅱ 地域福祉論Ⅱ 発達心理学Ⅱ 国際経済学 カリキュラム論 音楽基礎 保育者論 政治学原論Ⅱ 精神保健福祉の原理Ⅰ 現代哲学思想B 宗教学B 国際法</p> | <p>権利擁護と成年後見制度 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ 幼児と表現（音楽） 臨床社会心理学 精神医学Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ</p> | <p>ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ 障害児心理学 精神医学Ⅱ 精神保健福祉制度論 ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ 造形基礎</p> |
| <p>B 思考力・判断力・表現力等</p> <p>人間の尊厳の価値を踏まえて社会福祉の学びの対象となる人々に向きあい、人と社会を支えるための思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるよう判断することができる。</p> | <p>B-2 「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」「専門展開科目」等を中心に、社会福祉の基盤や共通した学びを踏まえ、社会福祉の対象となる児童、障害者、高齢者などの人々を理解し、その人たちが社会を支えるために必要な思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるようにするための科目を1年次から3年次を中心に配置する。</p> | <p>子ども家庭福祉論Ⅰ 障害者福祉論Ⅰ 高齢者福祉論Ⅰ</p> | <p>子ども家庭福祉論Ⅱ 障害者福祉論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅱ 社会理論と社会システム 障害者スポーツ論</p> | <p>福祉サービスの組織と経営 社会的養護Ⅰ 高齢者の心理とケア 乳児保育Ⅰ 子どもの保健 保育内容（健康） 保育内容（人間関係） 保育内容（言葉） ディズアビリティ・スタ ディーズ（障害学） 国際政治学 保育内容総論 精神保健学Ⅰ</p> | <p>公的扶助論 子どもの健康と安全 障害児保育論 学校ソーシャルワーク論 福祉環境論 組織マネジメント論 子どもの理解と援助 精神保健学Ⅱ</p> | <p>医療福祉論 テューション論 保育内容（環境） 保育内容（表現） 社会的養護Ⅱ 障害児教育論</p> | <p>国際福祉論 家族福祉論 子どもの食と栄養 子育て支援</p> | <p>卒業論文</p> | |
| <p>C 課題の解決への主体的・創造的な参画・貢献</p> <p>社会的支援が必要な問題等を発見し、修得した資質・能力を主体的・創造的に活用して、多様な人々と協働しながら解決に向けて取り組むことができる。</p> | <p>C-2 「技術演習・実習科目」や「専門演習・卒業論文」等を中心に、社会福祉に関する諸問題を自ら発見し、実践現場に参画しながら関係するさまざまな人々と協働し、主体的に解決することができるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。</p> | <p>手話 障害者スポーツ実技 ◎基礎演習 福祉情報処理</p> | <p>点字 ソーシャルワーク演習Ⅰ</p> | <p>ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 自然体験活動論 福祉英会話</p> | <p>ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 海外福祉実習 福祉情報演習Ⅱ 介護予防トレーニング演習 臨床心理学 乳児保育Ⅱ</p> | <p>ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅴ ◎専門演習Ⅰ</p> | <p>ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅵ ◎専門演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ</p> | <p>ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ ソーシャルワーク実習指導Ⅶ ソーシャルワーク実習Ⅲ</p> | |
| <p>D 自己の成長や社会の発展にむけて自律的に学び続ける態度</p> <p>社会福祉の分野を中心に、学問の価値、基本原則、真理について、自律的に探求することができる。</p> | <p>D-2 「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」等を中心に社会福祉の分野での学びや社会活動において学問の価値・原理・真理について自律的かつ持続的に探求するために必要な科目を1年次から段階的に配置する。</p> | <p>キリスト教社会福祉論 身体動作学</p> | <p>スポーツ衛生学 福祉情報演習Ⅰ</p> | <p>福祉情報ネットワーク論 福祉工学Ⅰ 音楽（アンサンブル）</p> | <p>福祉情報ネットワーク論 福祉工学Ⅱ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ</p> | <p>福祉工学Ⅱ 保育実習指導Ⅱ・Ⅲ 保育実践演習 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ</p> | <p>保育実習指導Ⅱ・Ⅲ 保育実践演習 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ</p> | <p>保育実践演習 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ</p> | |

※◎は必修科目を表す。